

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2019年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	1 内部質保証システムの機能的有効性の促進	C	第1次中期行動計画(2013-2017)より継続している自己点検・評価の体制は、各学部・部署に十分浸透しており、定期的に小委員会が開かれ自己点検が行われて、評価に値する。しかしながら、2019年度中に策定することを目標としていた内部質保証の基本方針と手続きの策定や全学内部質保証推進組織の整備等については、当初目標としていたところまでは進んでおらず、次年度以降の改善に期待したい。
	2 効率的な組織運営	B	各学部において教員組織の編制方針に基づき、昇格・採用等が実施できており概ね目標どおりである。今後も継続して取り組んでいくことが望まれる。事務組織の見直しについては、KPC2や神戸三宮サテライト開設に伴う人員配置の変更もあったが、入学高大・接続センターのKPC1への配置が出来たこと等、評価に値する。
	3 効率的な財政運営	B	概ね目標どおりである。教育研究振興募金について継続的に募金活動を実行し、周知を行っていることは大いに評価できる。次年度以降は外部研究等にも参加し、他大学の方策から学ぶことも必要であると考え。また、健全なキャッシュフローを確保するための財政計画は、中長期計画を実行する上で大前提になるものであり、継続した見直しが望まれる。
	4 戦略的広報活動の推進	B	広報部においてSNS等の活用を強化し、学内外に向けた情報発信やブランド力向上のための取り組みは一定の成果を上げているといえる。しかし、情報発信の頻度等は学部ごとで差が出てしまっており改善の余地がある。入学・高大接続センターを主導とした、受験生に対するの情報提供は新たな取り組みも含め一定の成果を上げられており今後も継続していくことでさらなる成果が期待できる。
	5 SDの推進	B	SD活動に関して計画策定や各学部・各研究科・各部署より検証結果等の提出を行うなど一定の進捗は見られた。一方でSD活動の結果を踏まえた次年度以降の各学部・各研究科・各部署への落とし込みが出来ていないことが次年度以降の課題として考えられる。
	6 男女共同参画の推進	B	男女共同参画推進室を中心として全学的な男女共同参画への取り組みが継続的に実行できており、成果が出ている。各学部・各研究科・各部署においても、女性教職員比率、上位職比率の向上に向けて、共通認識を持って取り組んでおり、評価できる。
	7 教育後援会・同窓会との連携推進	B	同窓会ホームページのリニューアルやSNSを通じた情報発信の数は昨年度よりも増加しており、卒業生に本学の取り組みを知ってもらうための取り組みは継続的に実施出来ていると評価できる。また卒業生に登壇してもらう授業等も学生の参加が増えており一定の成果を上げられているといえる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る